

「みんなで作ると楽しいね」 そば打ちとしめ縄 講習会

大山公民館大山分館



▲そば作りに挑戦中！

大山町産のそば粉を使った「そば打ち講習会」が12月11日に大山農村環境改善センターで行われました。

参加者は少なかつたですが、5歳の子どもも手打ちそばに挑戦。そば打ち名人の教



▲「ああ、なるほど!!」

えを受けながら、かわいい手で一生懸命そば粉をこねました。

また、12月14日には「しめ縄講習会」も開かれました。講師は種原の椎木喜久男さん。参加者は椎木さんの手ほどきで、最初にわらのほくだを取り除き、木槌で打って柔らかくしてから撚り、玄関用や神棚用のしめ縄を次々と作りあげて満足そうでした。



まちのたから (23) 文化財室通信

ハンボ塚出土埴輪の巻

大山町名和の名和川右岸の台地上に、ハンボ塚と呼ばれる古墳がありました。

古墳時代中期後葉の円墳であるハンボ塚から出土した埴輪は、貴重な考古資料として昭和57年5月31日、町指定文化財に指定されました。

ハンボ塚は名和地区県営ほ場整備事業・農免農道整備事業にもなつて昭和54年6月から発掘調査が行われ、その結果、周溝の外径直径は、東西54メートル、南北48メートルの円形で、周溝の幅は東側15メートル、西側が7メートル程度であることがわかつています。盛土によつて築かれたハンボ塚には、雨水などにより墳丘が崩落しないように石が葺かれていました。

このハンボ塚からは、収納箱約50箱分の遺物が出土しています。その多くは円筒埴輪で、残りは土師器や須恵器などです。そのほかにも土馬、馬鐔などがあります。出土した埴輪のなかで、2

基の人物埴輪と1基の水鳥埴輪が復元されています。

人物埴輪は丁寧な造りとはいえませんが、表情が豊かであり、何かを語りかえるような表情は愛らしくも感じられます。

胴体の内部に突起物があることから、腕を取り付ける際

に、まず胴体に穴をあけ、それから腕の部分を差し込んであると考えられています。手も指まで表現されています。

水鳥埴輪は淡黄色の胎土で固く焼きしめられています。

大山町にある貴重な文化財のうちの3点です。

(人権・社会教育課文化財室)



▲ハンボ塚出土埴輪